

成績評価について

(1) 成績評価（成績表の表示）について

- ① 成績評価は、当該学期末に行われます。
ただし、履修授業科目ごとに全授業回数の3分の2以上出席しなければ評価されません。なお欠席（公欠を含む）した場合は、当該授業における教授内容を免除するものではありませんので、担当教員の指示に従って課題等の提出を行わなければなりません。
- ② 科目の成績は、100点を持って満点とし、60点以上を合格とします。
- ③ 合格した人には、所定の単位が与えられます。

点数	評価	GP	合否
100点～90点	優	4	合格
89点～80点		3	
79点～70点	良	2	
69点～60点	可	1	
59点以下	不可	0	不合格
評価不能(-)	不認定	0	

※ 特別単位認定科目は、合格の場合、評価は認定となります。
※ 成績証明書には、合格した科目が「優・良・可・認定」で記載されます。（不合格科目は記載されません。）

(2) 成績通知書の発送について

- ① 成績通知書の発送は、各学期末(前期:8月下旬, 後期:3月中旬)に、保護者と学生本人の連名で、保護者宅へ親展文書で郵送されます。
ただし、後期卒業要件充足者には卒業式の案内が郵送され、成績通知書は郵送されません。
- ② 成績通知書は、卒業まで必ず保存してください。再発行はできません。
- ③ なお、成績(合否のみ)は、講義案内システムで確認が可能です。(学内のPCに限ります。)

(3) 成績表および修得単位整理表について（下記は、経営学部の場合）

成績表

群・科目	担当者	単位	評点	評価	期
【教養科目】					
(I群)					
NNNNNNNN	NNNNN	2	75	良	前
(第1外国語)					
中級英語Ⅲ	NNNNN	1	80	優	前
【専門科目】					
(共通必修科目[X群])					
研究演習2年	NNNNN	4		履修	通
(選択必修科目[B群])					
NNNNNNNN	NNNNN	2		—	前
(自由選択科目[C群])					
NNNNNNNN		2		認定	前
【キャリア科目】					
キャリア形成論Ⅱ	NNNNN	2	92	優	前
当該期修得単位数					22
当該期 GPA 値(注)					3.08

※評価「認定」: 所定の条件のもと、履修せず単位の修得を認められた科目です。
※評価「—」: 出席をしていない等の理由により評価不能な(不認定)科目です。
※評価「履修」: 前期成績表発送時に成績評価の出していない科目です。
(一部の集中講義、及び後期に評価の出る通年科目がそれに該当します。)

修得単位整理表

類別	必要単位	修得単位	不足単位
【教養科目】			
I群	4	4	0
II群	4	2	2
III群	4	4	0
第1外国語	4	2	2
第2外国語	2	1	1
健康教育	4	3	1
教養演習	4	4	0
【専門科目】			
共通必修科目	22	8	14
選択必修科目	22	10	12
自由選択科目	38	16	22
【その他教養・専門科目】	10	0	10
【キャリア科目】	6	4	2
<余剰単位数>		0	
合計	124	58	66
累計GPA(注)			3.08

※修得単位整理表は履修細則に従って分類されます。
(注)GPAについては、次頁参照

■成績表■

- ①成績表には、当該学期に履修している全ての科目が、教養・専門科目別に授業科目配当表の分類(群)順に掲載されます。(履修中止の申請をした科目は除く。)
- ②その「群」により、科目部門別に修得単位が分類されます。(→修得単位整理表)
- ③成績について、不明な点がある場合は、早めに教務課に申し出てください。(卒業予定者は、直ちに申し出てください。)

■修得単位整理表■

- ①現在までの修得単位を科目部門別に累積表示しています。
- ②それぞれの科目部門の必要単位数を修得しなければ、卒業できません。
- ③次学期は、この表を参考にして、不足単位分を修得していけるよう履修を組んでください。

★GPAによる成績評価について(2009年度以後入学生のみ)★

1. GPAとは？

GPAとは、Grade Point Average の略で、科目の評点をGP(グレードポイント)に換算し、1単位のGPの平均値を算出するものです。

2. 計算方法

各自の履修に基づき、各科目の成績結果(評点)を下表のように換算し、その合計を科目の総単位数で割ったものです。

評点	GP(グレードポイント)
100点～90点	4
89点～80点	3
79点～70点	2
69点～60点	1
59点以下	0
空白(評価不能)	0
履修中止(届出必要)	算定対象外
卒業要件外科目	
認定科目	

$$GPA = \frac{\text{科目のGP} \times \text{単位数の総和}}{\text{科目の単位数の合計}}$$

※GPAの最高点は、4.00です。
 ※卒業まで、ポイントが累計されます。

3. 事例

科目名	単位(a)	評点	GP(b)	a×b
教養演習	4	90	4	16
経済学 I	2		0	0
コンピュータ処理 I	2	70	2	4
中級英語 I	1	55	0	0
ビジネス概論 I	2	80	3	6
計	11			26

履修登録した授業科目の単位数の合計=11

(履修登録した授業科目の単位数×当該授業科目のGP)の総和=26

当該期のGPA=26÷11=2.36

GPAによる成績評価は、アメリカの大学で始まり、近年、日本でもこの計算方法を採用する大学が増えています。履修内容には個人差があり、従来の成績評価では単純な比較が困難であるとの理由から、進学・就職等の成績評価基準として、国内外で利用されています。(ただし、実際の運用方法は大学により異なります。)

本学での成績評価は、評点(点数)での評価が基本となりますが、こうした社会情勢もあり、2009年度入学生より、成績通知書および成績証明書にGPAを付帯事項として記載しています。なお、今後GPAの重要性が高まる傾向にあることから、**2014年度には本学におけるGPAの活用指針を作成しました(次ページ)**。当該期および累計GPAの変化を見ることにより、自分の学習成果を客観的にとらえることができますので、学業成績の指標のひとつとして、また大学卒業に向けた目標達成のために役立ててください。

進級判定等におけるGPAの活用について

本学では、学業成績をはかる基準として、「優」「良」「可」「不可」の成績評価に加え、GPA 制度を利用しています。GPA 制度は科目ごとの成績に単位数を加味した加重平均で全体の成績を表わそうとするもので、成績評価をより明確にし、個々の学生の学習指導に役立てることを目的にしています。

1. 進級判定(進級基準)

2年次修了時の修得単位数が52単位以上であれば、これまでは進級できましたが、今後は、各期のGPAについても参考にします。

具体的には、GPAの最大値が1.0未満の学生、及び、各期のGPAの最大値が1.0以上であっても、GPAの最小値が0.5未満である学生については、進級基準の【2年次から3年次に進級する時点での修得単位数が累計52単位以上(教養演習を含む)】を満たしている場合においても、履修の内容や将来の目標等に関して、指導教員が面談等の指導を行います。

その上で、所属学部の教授会において審議し、進級を判定します。

2. 退学防止

近年1, 2年次の退学率が極めて高くなっており、特にGPAが1.5未満の学生の退学率が高いことが明らかになってきました。「学期GPA」の推移を見ることで、学修状況の現状把握をすることができます。

下記の「GPA制度による学修状況把握」の目安を参考に、履修計画を立てて頑張ってください。

「GPA制度による学修状況把握」の目安

成績表には、学期ごとの履修科目を基にした「学期GPA」と、入学時から現在までに履修したすべての科目(累計成績)を基にした「累計GPA」が記載されています。

大学生生活全般の履歴は「累計GPA」が、現在の学修状況を確認するには「学期GPA」が参考になります。

GPAの値	評点の平均値	学習・生活面の状態
4.0~3.0	80点 ~ 100点を平均的に修得	非常に優秀で問題はない。
2.9~2.0	70点 ~ 79点を平均的に修得	問題はないが、前の期より下がってきている場合には注意が必要。
1.9~1.0	60点 ~ 69点を平均的に修得	ぎりぎり合格しているレベル。 学修姿勢により、不合格が増える可能性がある。 ① 過去の期GPAで0.5以下がある場合、進級できない可能性があるため「努力が必要」 ② 過去の期GPAで0.25以下がある場合、進級できない可能性があるため、「相当努力が必要」 ③ 過去の期GPAで0.5以下が2回以上ある場合、ほとんど進級できないので「覚悟を決めてほしい」
0.9~	不合格の割合が多い	ほとんど進級できないので、「覚悟する必要がある」

2014年8月作成・掲示